

令和2年度 広島市公文書館ロビー展

絵はがきからたどる広島あの頃 ―市街中心部―

展示番号	資料名	資料の概要
01	浅野泉邸	広島藩藩主浅野家の別邸として元和6(1620)年に作られた浅野泉邸の庭園「縮景園」の絵はがき。大正期発行
02	『縮景園記』	浅野泉邸が広島県に寄付された翌年に発行された縮景園のパンフレット。園の歴史や園内の建物、略図などを紹介。昭和16年 広島県立縮景園編・発行
03	浅野観古館	大正2(1913)年、浅野泉邸内に建てられた美術館「浅野観古館」の外観を撮影した絵はがき。大正期発行。観古館では浅野家所蔵の書画、武具や茶器等が展示されていた。
04	「観古館記念絵はがき」から展示風景	浅野観古館内の展示物の絵はがき。①浅野長勲(ながこと)具足、②観古館陳列 蒔絵類の一部、③定家卿の文、④達磨図 雪舟筆の4枚。大正期発行
05	広島八丁堀(京口門付近)	明治期の八丁堀京口門付近を撮影した絵はがき。右側に広島城の外堀が写っている。
06	八丁堀福屋前より中国新聞社を望む 本通夜の美観	昭和13(1938)年に建設された八丁堀の福屋百貨店新館と中国新聞社、本通り夜景の絵はがき。昭和(戦前)発行
07	福屋デパート2階【写真】	昭和4(1929)年に広島初の百貨店として開店した福屋(旧館)の2階の売り場。水着を着たマネキンの後ろに帽子が写っている。昭和10年 渡辺襄撮影
08	中元御贈答用品の葉(しおり)	昭和12(1937)年の福屋百貨店の中元贈答パンフレット。各フロアの案内や取扱商品が写真入りで紹介されている。
09	昭和14年分 町事務書類綴	草津南町(現西区草津南)総代が保管していた昭和14(1939)年の町の事務書類の綴
	・紀元二千六百年奉賛展覧会開催ノ件	上記簿冊に綴られている広島市から送付された福屋百貨店で開催予定の展覧会に関する告知文書
10	中国新聞社(社屋)	昭和11(1936)年に上流川町(現胡町)に建設された中国新聞の新館と本館を撮影した絵はがき。昭和12年頃発行
11	新天地	大正10(1921)年に堀川町(現新天地)に誕生した娯楽場「新天地」の絵はがき。正面突き当りに映画館「泰平館」、左側に劇場「新天座」が見える。昭和(戦前)発行
12	上棟式当日ノ新天座【写真】	新天地誕生を記念して発行された『新天地記念写真帖』(大正10年 広島土地建物編・発行)より、「新天座」上棟式当日の写真
13	平田屋川(原画)	『がんす横丁』(薄田(すすきだ)太郎著 たくみ出版 昭和48年発行)の挿絵の原画。現在の並木通りから南に流れていた平田屋川が描かれている。福井芳郎画
14	本通り	昭和10(1935)年頃の本通りを撮影した絵はがき。現在のアストラムライン本通駅付近から本通りを東に向かって撮影したもの。正面には鈴蘭灯、左側には安田生命広島支店が見える。昭和(戦前)発行

展示番号	資料名	資料の概要
15	金正堂書店店頭【写真】	本通りの金正堂書店の店頭の写真。昭和10年 渡辺襄撮影
16	革屋町下駄屋【写真】	本通りの下駄屋の店頭の写真。昭和10年 渡辺襄撮影
17	歓迎愛国婦人会広島県支部総会(本通り商店街パンフレット)	本通り商店街の優待証。昭和12(1937)年に開催された愛国婦人会広島支部の第3回支部総会に合わせて作られたものと思われる。開くと当時の本通りの店舗配置図が記載されている。
18	『史蹟頼山陽旧居と山陽記念館』	昭和10(1935)年、「日本外史」の著者頼山陽を顕彰するため建設された山陽記念館の解説冊子。頼山陽の居室の様子、山陽記念館の事業概要、建設の目的などがまとめられている。昭和11年 頼山陽先生遺蹟顕彰会編・発行
19	山陽記念館竣成記念絵葉書	昭和10(1935)年に建設された山陽記念館の竣成記念絵はがき。山陽記念館の正門、全景、遺物陳列室、講堂の写真と平面図の5枚。昭和11年発行
20	昭和10年(1935年)頃の昭和シネマ	中島本町(現中島町)にあった映画館「昭和シネマ」前で撮影された写真。看板には、昭和9(1934)年製作のドイツ映画「たそがれの維納(ウィーン)」の文字が見える。昭和10年ごろ撮影
21	SHOWA NEWS No.29	昭和シネマの映画案内(昭和7(1932)年頃に世界館から改称)。この号では、アメリカ映画「グランドホテル」の次週(2月11日)公開を知らせている。発行時期不明
22	SEKAIKAN NEWS	昭和シネマから再度改称した世界館の映画案内。表紙は1933年製作のドイツ映画「ペロニカの花束」。「三文オペラ」その他の解説と1939年公開のイギリス映画「スパイは暗躍する」(日本公開時期は不明)の上映予告等を掲載。昭和14年以降発行
23	慈仙寺(原画)	『続・がんす横丁』(薄田(すすきだ)太郎著 たくみ出版 昭和48年発行)の挿絵の原画。中島本町(現中島町)にあった慈仙寺が描かれている。福井芳郎画
24	『広島諸商仕入買物案内記並に名所しらべ』	広島市内の様々な店舗・問屋等の案内記。店構えや街道の様子が精密な銅板画で描かれている。渡辺葉之助(らいのすけ)編 明治16年発行
	・汽船乗客荷物取扱処 広島元安橋東北詰メ	汽船乗客荷物取扱処の左側には元安橋東詰にあった広島県里程元標(りていげんびょう。広島から各地へ向かう際の距離の起点となるもの)と江戸時代に設けられた触書等を掲示する高札場(こうさつば)が描かれている。(『広島諸商仕入買物案内記並に名所しらべ』より)
	・万問屋商(広島西本川)	万問屋は諸地方から多種類の商品の販売を委託されて、それらを専門の問屋や仲買へ売りさばいた問屋のこと。店内や河岸には米俵が積まれ、また店内に酒樽が並んでいる様子が描かれている。(同上)
	・下駄類卸並二桐下駄荒木取扱処(中島慈仙寺鼻)	中島慈仙寺鼻(現在の中島町の北端)にあった店舗の様子。画面中央奥に本川に架かっていた相生橋の西橋が描かれている。(同上)
25	広島元安橋	大正15(1926)年に架け替えにより鋼鉄桁の永久橋となった元安橋の絵はがき。大正期発行
26	本川の河畔	中島地区(現平和記念公園)の西側を流れる旧太田川(通称本川)の戦前の風景。河岸に和船の内部に座敷を設けてカキ料理を提供する「カキ船」が写っている。昭和(戦前)発行
27	広島本川橋	明治30(1897)年に木造橋から広島初の鋼橋としてアーチ型のトラス橋に架け替えられた本川橋の絵はがき。大正期発行

展示番号	資料名	資料の概要
28	相生橋及丁字橋	昭和7(1932)年に架け替えにより道路軌道併用の鉄鋼橋となった相生橋の絵はがき。昭和14年発行
29	相生橋の変遷	相生橋の形の変遷を伝える図や絵はがき
	①広島中島新地相生橋之図	相生橋が元安川と本川に架けられた東西2つの木造橋で、中島の慈仙寺鼻を結節点としたV字型をしていた時期のもの。(明治16年発行『広島諸商仕入買物案内記並に名所しらべ』より)
	②広島相生橋	元安川と本川に架けられた東西2つの木造橋に加え電車専用橋が架けられている。広島県物産共進会開催中の絵はがき。大正4年発行
	③相生橋及丁字橋	昭和7(1932)年に現在の場所に道路軌道併用の鉄鋼橋が完成し、慈仙寺鼻と新しい相生橋の間をつなぐ橋が架けられH字型となった時期の絵はがき。昭和(戦前)期発行
	④広島市大観 丁字橋(相生橋)	古い木造橋が取り払われて現在のようなT字型となった時期の絵はがき。昭和(戦前)期発行
30	建設中の広島県物産陳列館【写真】	大正3(1914)年に建設に着手された広島県物産陳列館の建設途中の写真。大正3年撮影
31	商品陳列所	広島県物産陳列館は、県内の物産の陳列、商工業に関する調査相談、取引の紹介などを目的に大正4(1915)年4月5日に竣工し、同年8月15日開館した。大正10年1月、「広島県立物産陳列所」と名称を変更。さらに、昭和8(1933)年11月1日には、「広島県産業奨励館」へ名称を変えた。これは昭和5年頃に撮影された絵はがき。昭和(戦前)発行
32	『事務報告 広島県物産共進会』	大正4(1915)年4月5日から5月14日までの間、落成したばかりの広島県物産陳列館の2・3階を第一会場、西練兵場を第二会場として開催された広島県物産共進会の事務報告。大正11年 広島県物産共進会協賛会編・発行
33	物産共進会第一会場風景写真	広島県物産共進会第一会場の様子を撮影した絵はがき。①元安川対岸から撮影した外観、②夜のイルミネーション点灯時の外観、③陳列室内の様子(2枚)、④洋式庭園、⑤和式庭園の様子の計6枚。大正4年発行
34	売薬講習会記念撮影【写真】	大正5(1916)年3月、広島県物産陳列館で売薬講習会が開催された際、同館前で撮影されたもの
35	第4回全国菓子飴大品評会写真帖	大正10(1921)年4月1日から15日までの間、広島県立商品陳列所で開催された第4回全国菓子飴大品評会の写真を集めたアルバムとその中の写真3枚。①商品陳列所前に設けられた入口ゲート、②商品陳列所内の展示風景(広島県出品コーナー)、③商品陳列所内のらせん階段で
36	『産業の広島県』	広島県産業奨励館の業務内容、県内各地の産業の状況などを紹介したパンフレット。昭和9年 広島県産業奨励館編・発行
37	広島県産業奨励館の正門前【写真】	広島県産業奨励館の正門前の写真。広島市出身の洋画家、小早川篤四郎の従軍画展覧会(会期:11月2日～5日)の開催を告知する看板が見える。昭和14年 大木茂撮影
38	広島大手町	大正期に発行された大手町の絵はがき。大手町は広島城大手門前から南に延びる大手筋(現エディオン広島本店東館と西館の間)に沿う町で、左側には広島県農工銀行、右側には洋風の塔がある日本火災広島支店が写っている。

展示番号	資料名	資料の概要
39	広島郵便局	明治26(1893)年に旧西国街道と細工町筋のY字の交差点に建てられた広島郵便局の絵はがき。明治期発行
40	細工町	大正3年に発行された細工町の絵はがき。五階建ての料亭五階楼などの旅館料理商や、問屋、小売商等が並ぶ繁華街だった。写真は細工町の通りから現在本通りの方を撮影したもの。右側に広島郵便局の2階建て(一部3階建て)の建物が見える。
41	広島市横町通り	横町は、現在の本通りの西端にあたり、これは横町を東端から西向きに撮影した絵はがき。中央には広島郵便局の時計塔が見える。道の両側の店舗には広島県物産共進会のマークが入った提灯が飾られており、物産共進会開催中に撮影されたものと思われる。大正4年撮影
42	紙屋町交差点	紙屋町交差点の絵はがき。正面左側には大同生命中国支社、隣に芸備銀行(現広島銀行)本店等のコンクリート造りの建物が並ぶ。昭和13年発行
43	広島紙屋町交差点	紙屋町交差点の絵はがき。ポイント切り替え所が写っている。大正期発行
44	〔開通記念花電車〕 広島電車紙屋町停留場	大正元(1912)年に開通した広島電気軌道の開通記念絵はがき。紙屋町交差点の背景に広島城外堀の石垣が見える。大正期発行
45	昭和9年起 事務書類(草津南町) ..... ・郵便局より御願ひ	草津南町(現西区草津南)の町総代文書のうち、昭和9(1934)年分の事務書類の綴  上記簿冊に綴られていた昭和9(1934)年6月に広島郵便局が作成したチラシ。標札の掲出、方書の記入、不在が多い家については郵便受けを設置することなどを依頼している。
46	展示番号24『広島諸商仕入買物案内記並に名所しらべ』(明治16年発行)より ・郵便局 ..... ・御菓子御処(広島横町筋大手町二丁目角) ..... ・料理商 五階楼(広島細工町)	画面奥に元安橋、左手にはその東詰南側にあった駅通局(後の通信省の母体)出張所と郵便局が、右手には広島県里程元標が描かれている。明治16年発行(『広島諸商仕入買物案内記並に名所しらべ』より)  西国街道沿いの御菓子御処「松花堂」の店舗。店頭には菓子が並び、店内は砂糖樽が並んでいる。(同上)  明治初期に細工町に建てられた5層、高さ11間半(約21m)の料理店。広島文明開化を代表する建物であった。(同上)
47	広島城	広島城天守閣の東面を撮影した絵はがき。大正期発行
48	広島城天守閣内部の写真	広島城天守閣内部の写真3枚。 ①天守二階内部写真、②天守三階内部写真、③天守五階内部写真
49	「明治19年 県甲達纏(まとめ)」(観音村役場文書) ..... ・虎列刺(これら)病流行にともなう広島城内に通じる道路遮断の件	明治19(1886)年の広島県からの通達等をまとめた旧観音村役場の文書綴  上記簿冊に綴られている文書。虎列刺病流行により、広島城内に通じる道路のうち、大手口(元一丁目御門)と京橋口(元京口御門)以外の道路の通行を、7月10日から当分の間遮断するよう広島鎮台から通知があったことを伝えている。
50	(史蹟)広島大本営跡	明治27(1894)年の日清戦争勃発時に広島城内に置かれた広島大本営跡の外観を撮影した絵はがき。広島大本営跡は大正15(1926)年、史蹟に指定された。昭和(戦前)期発行

展示番号	資料名	資料の概要
51	広島県御安着之図(錦絵)	明治27(1894)年に広島城内に置かれた大本営に入る明治天皇を描いた錦絵。騎乗の姿で描かれており、想像で描かれたものと思われる。楊斎延一作、横山良八発行 明治27年頃のもの
52	日清役当時広島「帝国仮議院」	明治27(1894)年大本営が広島に設置されたことに伴い建設された臨時の帝国議会仮議事堂の絵はがき。①外観、②貴族院、衆議院の各議場の様子を撮影したものの2枚。明治・大正期 六盟館発行
53	官祭広島招魂社	昭和9(1934)年に西練兵場(現基町)の西端に社殿を移した広島招魂社(現広島護国神社)の絵はがき。昭和(戦前)発行
54	招魂祭風景【写真】	昭和11(1936)年に西練兵場で開催された招魂祭の様子を撮影した写真。①特設競馬場で競馬、②特設競馬場でオートバイレース、③護国神社鳥居の3枚。渡辺襄撮影 招魂祭は広島招魂社の戦没者を慰霊する祭礼で、余興(奉納催事)として柔道や相撲が行われたほか、屋台や見世物小屋が建ち並び、競馬やオートバイレース、自転車競走なども開催された。
55	広島招魂祭祭場其他配置略図	昭和11(1936)年に西練兵場で開催された広島招魂祭の祭場の配置図。競馬場を中心に周囲には売店が置かれ、電車通り側には興行場が配置されていたことが分かる。
56	広島市主催昭和産業博覧会(第一会場)特設館街	広島市主催昭和産業博覧会は、昭和4(1929)年3月20日から5月13日まで、55日間にわたって開催された。産業の現状を紹介することで産業界や市民の意識の高揚を図り、産業や貿易の振興に繋げることを目的としていた。第一会場として使用された西練兵場の絵はがき。昭和4年発行
57	『大広島案内』	広島市主催昭和産業博覧会開催時に出版された来広者向けのガイドブック。博覧会会場付近の名所旧跡の案内などが記載されている。昭和4年 広島市主催昭和産業博覧会協会発行
58	昭和産業博覧会配置図(第1～3会場)	昭和産業博覧会の会場(第一、第二、第三会場)配置図。本館の他に機械館や化学工業館、貿易館といった数多くの会場があったことが分かる。昭和4年 昭和産業博覧会協賛会編・発行
59	『大日本職業別明細図 大広島市 昭和14年』より市内中心部【複製】	昭和14(1939)年の広島市内の市街地図。官公庁、学校、商店、社寺等の名前が詳細に記載されている。昭和14年 東京交通社発行
60	『大広島市街都市計画地域別街路網図』昭和5年版より市内中心部【複製】	昭和5(1930)年の広島市内の市街地図。基町地区の軍関係施設が詳細に記載されている。昭和5年 大日本東京交通公社出版局編・発行
61	「都市計画線入地図 昭和10年」より市内中心部【複製】	昭和10(1935)年の広島市内の市街地図。同年 金正堂書店編・発行の『番地入大広島市街地図 昭和10年』の裏面

※絵はがきの発行年について

- ・絵はがきの袋、検閲日または押印されているスタンプ等で発行年を特定できるものは、その年を採用しています。
- ・詳細な年次が不明であり、当館が推定したものについては、「明治発行」、「大正発行」等と大まかに記しています。
- ・昭和は、昭和20(1945)年8月15日以前を戦前、16日以降を戦後としています。
- ・なお、絵はがきは、古い写真を使用して作成しているものもあることから、発行時期と撮影時期は必ずしも一致しません。